

きょうたん ばんのうじん 驚嘆の万能人(2021.11.21)

「モナ・リザ」などの絵画で知られるレオナルド・ダ・ヴィンチは、芸術だけでなく科学や技術の分野でも才能を発揮した。その片鱗は、30歳の時に職を求め、ミラノ公国の君主に書いた手紙からも伺える。

自分には戦争に役立つ技術があると訴え、「運搬容易な大砲」「堅牢な戦車」などが作れるとした。平和なときには大建築物や彫刻を手掛けるし、絵の技量も「他の何びととでも御比較あれ」と記した。
(『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記』)

興味の赴くまま、天文学や解剖学などにも手を広げた人である。後世の人々から驚きを持って「万能人」と呼ばれたのは、芸術も科学も専門化、細分化が進んだことの裏返しだろう。もしかしたら野球の世界も、それに近いものがあるかもしれない。

エンゼルスの大谷翔平選手がアメリカン・リーグの最優秀選手(MVP)に選ばれた。満票での選出という快挙は、万能ぶりへの驚嘆からだろう。「投打兼任は成功しない」「投手が盗塁などもってのほか」といった常識を覆していった。

「本当に純粋にどこまでうまくなれるのかなと、頑張れたところが良かった」という大谷選手の弁は、ひたすら真っすぐである。大リーグではすでに、自分も二刀流を、という選手が現れているという。おそらく未来の選手となる子供たちの間にも。

何かのために別の何かを諦める。そんな生き方とは違う道を大谷選手が示してくれた。一人一人がもっと欲張って、楽しんでいいのだ

と。